

源氏物語講義

空輿





空蟬

此卷ハ旧注ニ家を以て巻の名といふといふのめく、第十三節よりこの水此れもとよなほ人のらのなつゝきこのれとある所の家を以てなつてなまづ

段落

は巻の段落照るをいふて、帚木の巻といふるがぬ、かよ、若ん

四小節四節

福くれのそぬまは上の才三節のつゞきよて、かゝつゝよふせのくせ」といふを受て書出せり源ぬくれのいぬま、よさま

源氏物語講義

うはせ

空蟬の巻

九十一節

但帚木の巻の續きなり

此巻ハ。帚木の巻の末を切りさけて。一卷とあるなるを。上の第二大段四小段の續き。さてかくゆくりなく切りさけて。別巻となしたる作者の意を。帚木の巻尾に記せる愚考のめく。なまづ。さきばこころ。源氏十七歳。中。おと。さ。時。乃。る。ると。上。よ。同。

源氏

福くれぬまは。これハかく人よに。な。れて。ゆ

る。を。ぬ。を。こ。よ。ひ。な。ん。を。ど。め。て。う。と。世。世。思

ひ。ち。り。ぬ。ま。は。ま。づ。う。う。て。さ。の。ら。ふ。ま。づ。く。こ

そ。思。ひ。な。り。ぬ。れ。な。ど。の。ゆ。へ。は。深。を。さ。へ。こ。ゆ。へ

て。あ。う。う。い。と。ら。う。た。と。お。お。ま。を。て。ま。づ。ま。の。ほ

そ。く。ち。ひ。さ。き。ほ。ど。の。み。の。い。と。な。が。ら。ざ。り。け



く

ぎほのよをぬめぐ
 らはさへぬ○かきま
 れてもさふぬを憎
 まれしもなまぢい
 ○引うた「カハユラシ
 へ○てさびりいひさ
 りへ○ちひささい
 小キアンバイへ○あれ
 りあひささうあら
 んも○ひささうあ
 る「ガマルキへ○ま
 めやへは「真実よ○
 めさま「心外へ○い
 とほ「まのどくへ○
 つかささかへ源の
 もちちへ三出のへ小
 君いものさびりとあへ

ちひのさへぬよひさるも。あひな。よや表へ。
 あねがちようづらひたとりまへんも。ひとこら
 のもぐ。まめやあよあさま。とね。阿のう
 さいのやうよものぬひまうりいさ。ねあううあへ
 ば。この子いとはほくさうぐ。とあふ。四小段の
 源不貞げよて。中川の家を立出て。海りめふさまへ。
 こゝよさいのやうよものぬひまうりいさ。とあへ。
 上の三小段才四節よこの子をまうりいひて。四小段
 才一節よあけくれまうりいさ。ぬひければるどあを
 うけてさいのとこり。下よのさいひ。女もさへなま。か
 まつた。いとあも皆あね。照る。おほ
 ー。さよりも。あもよ。やうてはまうりいさ。やと

四小才五節

八六

らい。まのどくへ
 ○「せうをこは源の
 おとづれへ○やうの
 れるくへまへんよ
 へんもさくへ源が
 おひやこのひタナラバ
 つらへアラウとへ○
 ちひていとほ。まへ
 サリナガラちひて沙
 まのどくへへ○引
 たてあへ。し
 ワルイコトデアルへ○
 ぬふりのへ。あ
 のもさぐへ○あ
 めちあめあへどが
 ちへ○へちへあも
 へへへへ「ガマル

のひさる。うづらうま。ちひてりとほ。まへ
 ぬひのさい。ちひるも。うてあへ。よ。え。程
 よかへとちあへ。とあふ。あへ。な。ら。ん
 さ。あ。あ。ち。あ。り。あ。い。心。つ。さ。あ。へ。お。あ。へ。な
 へ。あ。へ。て。い。え。や。む。ま。う。あ。へ。り。人。日
 ろくおもほへ。びて。こ。み。よ。く。ら。う。も。う。れ
 へ。も。お。ほ。ゆ。よ。ち。ひ。て。あ。ひ。く。せ。い。ふ。し
 も。あ。へ。は。さ。る。ま。り。ぬ。ぎ。ま。り。あ
 へ。あ。へ。さ。へ。あ。へ。れ。と。の。ぬ。ひ。さ。れ。ば。
 へ。へ。へ。へ。あ。へ。れ。と。の。ぬ。ひ。さ。れ。ば。

源氏物語講義

うはせこ

二

ク思ひ歎きのそと○
さつめづきをり然
づき折之○あまのれ
方便をせよ○引づ
らひーレマンドウと

四小ノ才六節

をささきんち小君
幼年されど源いこ
キナラ又仰せなれば何
卒よきをりもあれの
ーと待させ○あや
この引家か葉よゆ
ふやいなるは月
待せうへれとせそ
のまよみんとあま
を取りてつと夕
やまを幸よ出の
ま○引づけるま
づいそれとたまふ
うをしと○引の

かひい。うね。うねはさりり
『四小段の才五節之。源
が立降りりあると
よそ。あまのれづうひ
乃さ由叙叙せり。』
をささきんちよ。いのねん
をりよのと待せしるよまの
どして。女とちのどやあなる
いげなるまきれよ。この車よ
るをされきをいのろんとおぼ
えおぼのどむま。うりけれを
がこよて門なるとさぬさき
くえぬうよりひきりれておろ
こらハなれを。とのぬぐな
八号

あ人宿直の門番之○
引とよいれ特別
見入ま○引ひそり
せびしうめぬよ○
引んずのつまに東
の妻戸之○引ひこれ
まこのまに南の角の間
之○かうーとまの
志り格子を敲き大声
して○あの手あし
細流云伊豆介の女新婦
疾之。さゆのま子
母家の西の方よま
るま
四小ノ才七節
やまらソロく○引
ふれのをさし源の間
之○引ひりつるか
うー小君の入つる格
子之○引ひ西方

はあそうせびんやまーんがのつまにたそな
りて。あハさるこれまのまよりかうしたまの
志りていりぬごさあハなるといふなり。な
ぞかうあつまよ。このかうーハおろされたこと
バ。ひりよりあのはうこれりせのひて暮うせ
のあといふ。四小段の才六節之。源小君よ導ひあ
田の智。さそむあひみ。をんをやと思ひて。
やまらあゆいぞ。まのまがはよりいり
このいりつるうりーハまがはねむ。ひま
よよりて。よーがはよるとは。のまのまらよ

源氏物語講義

うはせ

三

く〇おしりのうごち
 しくまれたらば屏風の
 の端の方を押したみ
 たる〇おしりのうごち木
 丁も帷を上へうち
 かけしる〇おしりのうごち
 なる〇おしりのうごち
 母屋の中柱の側面
 よえせし居る〇
 かよのうあらん〇おしりのうごち
 くおれきて〇おしりのうごち
 みおしりのうごち〇おしりのうごち
 のげなき〇おしりのうごち
 てるなき〇おしりのうごち
 〇おしりのうごち
 ひて基うらん〇おしりのうごち
 つまやせ〇おしりのうごち
 手つき瘦て〇おしりのうごち
 かくし手を引こみて

てしる屏ゆか。このうごち。まされたるま
 きるぎき木丁をまも。あつればよや。うちうけて
 いとよくしられる。火ちのうごち。おしりのうごち
 めとめゆ。濃綾。おしりのうごち。おしりのうごち
 よのあらん。おしりのうごち。おしりのうごち
 きた人のおのげ。おしりのうごち。おしりのうごち
 き。おしりのうごち。おしりのうごち。おしりのうごち
 てる。たり。つみやせ。おしりのうごち。おしりのうごち
 あり。軒端。おしりのうごち。おしりのうごち。おしりのうごち

あらつた。おしりのうごち
 以上ハその用を深き
 容貌をいふ〇おしりのうごち
 ぬのころちまきだつもの
 二藍ハ赤バ青バ二色
 ニテ深たつ。ころちまき
 ハ小袷ハ唐衣の代用
 するもの〇おしりのうごち
 〇おしりのうごち。おしりのうごち
 太リテ。〇おしりのうごち
 ザワ。スル。〇おしりのうごち
 やのハッキリ。〇おしりのうごち
 くちつき。眼つき。口の
 きん。〇おしりのうごち。おしりのうごち
 敬。〇おしりのうごち。おしりのうごち
 たる。〇おしりのうごち。おしりのうごち
 〇おしりのうごち。おしりのうごち

く。おしりのうごち。おしりのうごち。おしりのうごち
 ちき。おしりのうごち。おしりのうごち。おしりのうごち
 ひき。おしりのうごち。おしりのうごち。おしりのうごち
 なる。おしりのうごち。おしりのうごち。おしりのうごち
 ちつ。おしりのうごち。おしりのうごち。おしりのうごち
 あり。おしりのうごち。おしりのうごち。おしりのうごち
 か。おしりのうごち。おしりのうごち。おしりのうごち
 く。おしりのうごち。おしりのうごち。おしりのうごち
 く。おしりのうごち。おしりのうごち。おしりのうごち

うーげさるはうつくべ
あまゝ〇〇〇〇〇〇〇〇
ナルホド伊ふハ女を
又無き女と云テアラウ
と云〇〇〇〇〇〇〇〇
女ハハハハハハハハハ
ある氣味を添へて
又あると云〇〇〇〇〇〇
きよハあるか〇〇〇〇
学才ハ源のゆゑなり
て地より云〇〇〇〇
やゝなる者〇〇〇〇
き状〇〇〇〇〇〇〇〇
ガメラサス〇〇〇〇
ハヤゲ〇〇〇〇〇〇
うさうさ〇〇〇〇〇〇
キト騒ゲバ〇〇〇〇
そあ〇〇〇〇〇〇〇〇
うせまの〇〇〇〇〇〇
う〇〇〇〇〇〇〇〇

なるけをそくたやと。ナヨッ〇〇〇〇〇〇〇〇
ま。〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
てま。〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
どあて。〇〇〇〇〇〇〇〇
りのころを〇〇〇〇〇〇〇〇
。基盤の角〇〇〇〇〇〇
りきみの〇〇〇〇〇〇〇〇
二十 三十 四十
を〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
フアンナイニテルマシ
た〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
や〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
側目

八号七

う〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
引多〇〇〇〇〇〇〇〇〇
とそ〇〇〇〇〇〇〇〇〇
ゆげ〇〇〇〇〇〇〇〇〇
右ハ九ツ中ハ十ハ〇〇〇
三十三とあり〇〇〇〇
よもあれど略ハ〇〇〇
一〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
て〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
と〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
ひ〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
つけ〇〇〇〇〇〇〇〇〇
字〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
着け〇〇〇〇〇〇〇〇〇
ナハ〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
つく〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

目〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
ま〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
お〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
つれ〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
け〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
づき〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
あ〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
な〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
い〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
ち〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
ま〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
ま〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
ま〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
ま〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

源氏物語講義

うたせ

五

ちたれば、搦むあるく
固く貞実をもちてあ
れば、○いひあてせん
みこすして、説きて源
一違せん方便をくで
○のいまみ俗ゾキ見
○のいり、よ木丁
そして、格子のうちよ
几帳を立をてあれを
又えが、○と○出
り、「サウカ」と○出
れども、とまはされど
まごよみのい、とた
を、○おな、○
いと、○まの、とく
○つ、つ、と云、格
子ハ既、よさ、たれを
女ハ妻戸をたくま
て入る、○ま、と
親志むさ、俗秘と云

のほひ、あつむおるくまめだち、れば、いひあ
せん、う、な、て、人、く、な、らん、を、り、い、
ま、ん、と、お、ふ、な、り、り、り、ま、の、こ、れ、い、
も、こ、こ、よ、ち、あ、い、れ、よ、あ、い、ま、こ、せ、き、さ、よ、と
の、い、づ、い、の、さ、り、さ、は、ま、ら、ん、の、う、よ、木、丁、を
つ、て、休、ま、と、ま、さ、ゆ、ま、の、い、れ、ど、も、と、ま、の、
お、な、せ、ど、う、と、は、ま、せ、ど、い、と、は、い、と、お、な、と、
お、な、ま、の、い、ふ、と、な、ま、の、い、ま、い、び、つ、ま、
戸、を、し、て、ま、て、い、る、い、れ、く、と、ま、り、お、な、り、
け、さ、う、ど、ち、よ、ま、あ、い、ね、さ、ん、風、吹、と、は、せ、と

八号九

よ、同、○、い、み、ひ、ろ
げ、て、古、の、夏、ハ、今、の
う、を、い、る、あ、ま、ひ、ら
げ、て、と、ま、○、月、を、れ
ち、つ、○、い、上、よ、小
君、の、妻、戸、を、あ、ま、い、
時、よ、ち、う、り、時、童
之、○、い、ま、の、り、を、い、ぬ
し、て、少、一、睡、た、り、を
志、て、○、ま、い、ま、い、
ま、俗、な、の、う、い、ま、い、
○、つ、ま、い、恥、あ、い、
木、丁、の、か、び、う、几、帳
の、帷、○、や、を、い、ま、い、
○、内、の、け、い、ひ、ま、い、
人、の、お、な、が、ま、り、て
初、め、け、ある、は、物、音
よ、く、す、ゆる、もの、な、れ
を、源、の、和、ら、の、なる、は、
衣、の、ま、い、く、ま、る、もの、

て、い、み、ひ、ろ、げ、て、ふ、い、ご、ち、ひ、ん、が、
い、と、あ、ま、い、ね、さ、る、ご、戸、を、あ、ち、つ、る、う、り、
そ、ち、う、の、方、へ、い、り、て、ふ、い、お、な、い、と、ま、の、り、を、ら、ぬ、し、て、
火、阿、の、ま、い、う、こ、よ、屏、風、を、ひ、ろ、げ、て、い、げ、ほ、の、の、な
る、よ、や、を、い、い、ま、い、なる、い、の、よ、ま、を、こ、の、い、ま、い、ま、い、
も、い、と、お、な、ま、い、い、と、つ、ま、い、け、ま、い、と、ま、い、
く、ま、い、よ、ま、の、木、丁、の、か、び、う、ひ、ま、い、あ、げ、て、い、と
や、を、ら、い、り、ぬ、ふ、と、ま、れ、ど、い、れ、志、が、ま、れ、る、お、な、
い、ぞ、の、り、を、い、や、ま、い、の、な、ま、い、い、と、ま、い、の、り
け、い、
四、小、段、の、才、九、節、ハ、小、君、源、を、導、き、て、夜、の、寝
お、よ、入、建、立、の、條、ハ、○、さ、ま、い、く、の、動、静、を、窺、ふ

源氏物語講義

う、は、せ、と

七

よくすゆること、

四小才十節

あや〜〜夏のやうなる
ひま〜〜
あや〜〜夏のやうなる
ひま〜〜
あや〜〜夏のやうなる
ひま〜〜
あや〜〜夏のやうなる
ひま〜〜

状の所の始は志づまりぬるり「次は志づまりぬるり」
次は引れ志づまりぬる夜の」とある。此所のそ尾は
女のさ〜〜
あ

や志く夏のやうなること。ひまをさるるをりたるま

比よそ。ひまけたるひまは移れぬる人ひまひなま

めよる。いねがめめあるれは。志なるぬるれめあ

となくちるげりまいた。ひまちるまひまひま

あひまひま。あひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

源氏物語講義

うはせつこ

八

よ〜〜けれど。うちちるるまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

あひまひまひまひまひまひまひまひまひま

さきさきのさきさきりぬて
屠衣を脱ぎおきたる
はあがりさきさきハリス
がしのちのちさきさきと
ギヤナアと云て人が
はらばせをかかす
○ひとは一けれどさき
のどくちさきさき○ひ
さきさきさきさきのさ
あを脱ぎおきさきさき

四小段十四節

さきさきのさきさきりぬて
屠衣を脱ぎおきたる
はあがりさきさきハリス
がしのちのちさきさきと
ギヤナアと云て人が
はらばせをかかす
○ひとは一けれどさき
のどくちさきさき○ひ
さきさきさきさきのさ
あを脱ぎおきさきさき

一けれどさきさきのさきさきりぬて
屠衣を脱ぎおきたる
はあがりさきさきハリス
がしのちのちさきさきと
ギヤナアと云て人が
はらばせをかかす
○ひとは一けれどさき
のどくちさきさき○ひ
さきさきさきさきのさ
あを脱ぎおきさきさき
源二條路へ降りぬてぬ
源のすを思ひぬてぬ
いささればあなまさきさきさきのさ
さきさきのさきさきりぬて
えんさきさきのさきさきりぬて
うさきさきのさきさきりぬて
らんさきさきのさきさきりぬて
あさきさきのさきさきりぬて

源のうらつゆのさきさきりぬて
屠衣を脱ぎおきたる
はあがりさきさきハリス
がしのちのちさきさきと
ギヤナアと云て人が
はらばせをかかす
○ひとは一けれどさき
のどくちさきさき○ひ
さきさきさきさきのさ
あを脱ぎおきさきさき

源のうらつゆのさきさきりぬて
屠衣を脱ぎおきたる
はあがりさきさきハリス
がしのちのちさきさきと
ギヤナアと云て人が
はらばせをかかす
○ひとは一けれどさき
のどくちさきさき○ひ
さきさきさきさきのさ
あを脱ぎおきさきさき
源のうらつゆのさきさきりぬて
屠衣を脱ぎおきたる
はあがりさきさきハリス
がしのちのちさきさきと
ギヤナアと云て人が
はらばせをかかす
○ひとは一けれどさき
のどくちさきさき○ひ
さきさきさきさきのさ
あを脱ぎおきさきさき

見ハ源の内消息なき
 ハらるゝを短ひのみ
 有んと興さめて
 思ひはば一々之○言
 れたは俗シヤタル之
 俗アサラ
 コイ之○言ハ
 畳紙之懐中紙といふ
 も同ト○言ハ
 上より下の方をうへ
 て下より上を受てよ
 める人、んを源のこと
 所思ふ事トといふへ
 とも思ひくは袖を志
 げらるゝとともとうち
 歎きたる人、

空蟬の巻終

びがさればばはらさうあみのうらあまよ。

びがせらあまよおくあまのさざくられて一のび

志のびよぬる神うれ

四小段の才十四節之。小君
ひそりよ。源の才段をよ。不

比状之。是近を才二大段落と云。さて才四小段ハ。帚木の
 志より引通したる事柄を。才あまより引く結ぶるが故よ。
 こハ才巻の段落の志より。帚木空探ふる志の結
 尾之○言ハ才巻ハ始ハ神うれの志よ。はらさうらまよ。とゆくりな
 くかきゆりたきバ。さざくらと神探の志よ。おくあまの志よ。て。
 ゆりさるる。孩びくるを。物してあま才大段の二小段の
 才四節帚木。源の才が初て逢ひなり。とき。あま。な
 がりの才あまらるる。と歎きたる。終よ。才あま。舟び
 とり出て。あま照るせ。め。娘。終この心をあまの心とて。
 志の貞操を全うし。め。才あま。大尾を結ぶる文法。を
 いらが。い。巧るをといふ。

